

6月議会一般質問6月11日（月） 午前10時から 笹田トヨ子議員 水害対策と乳幼児のワクチン接種を取りあげ

大垣市議会6月議会は6月4日から6月18日の予定で開かれています。一般質問は6月11日（月）午前10時から開かれます。一般質問には10人の議員が質問にたちます。笹田トヨ子議員は7番目、午後13時頃の前定です。質問事項としては、水（水害）に関する事項3点と細菌性髄膜炎のワクチン接種の制度化を求めて質問にたちます。傍聴をよろしくお願いします。

イオン大垣南ショッピングセンター 出店に伴う排水問題について

イオン大垣南ショッピングセンターの出店等で環状線南部の水田が埋め立てられ、排水は大丈夫かといった心配の声が寄せられています。これに関連して、以下の質問を行います。

1. イオン大垣南ショッピングセンターの排水施設は1時間80ミリの降雨量を想定しているということですが、平成16年におきた23号台風の降雨量に対応できるのですか。
2. イオンの排水施設は、今までの水田の保水能力のレベルを満たしているのですか。
3. イオン周囲の市道の側溝はどこが管理し、側溝の水はどこに排水されるのですか。
4. イオンの西側や南側の水田が現在駐車場などになっていますが、水田の埋め立てに伴い発生する排水問題にどう対応するのですか。

荒崎地域の水害の原因と 対策について

（1）荒崎水害訴訟原告団が被害状況のアンケート調査を行い、第12準備書面として裁判所に提出しましたが、それに関連して質問します。

- ①回答者の8割の人は「荒崎地域が浸水する地域だとは知らなかった」と答えています。そしてこの地域に家を建てた理由として「大垣市のモデル分譲地として売り出され市役所を信用した」とあります。このように水害常襲地域を市街化地域に指定し、住宅化を進めてきた大垣市の責任は大きいと考えますがいかがですか。
 - ②荒崎水害被害の特徴は度重なる浸水被害で経済的損失は勿論のことですが、精神的被害の回復に時間がかかり、今も治療を余儀なくされている人がいるということです。度重なる浸水被害を放置してきた大垣市をはじめ岐阜県の責任は大きいと思いませんか。
- （2）平成19年度は大谷川床上浸水対策特別緊急事業などが終了し、河川整備第1期計画の完了で、大谷川洗

堰の高上げが予定されています。しかし、第1期計画では洗堰の高上げはあっても、洗堰そのものは残りません。そして洗堰が残る限り荒崎地域は遊水地としての役割を果たすことになり、大洪水になれば洗堰からの越流が始まります。その対策について質問します。

過去の水害被害状況の 資料開示を

ハザードマップには過去の水害による被害が記載されていますが、この資料では床上・床下の戸数と農地冠水の面積だけで、どの地域にどの程度の浸水被害があったのかわかりません。過去の浸水被害状況をまとめ、市民に提供することが今後の水害対策にとって重要と考えますがいかがでしょうか。

細菌性髄膜炎の ワクチン接種の制度化を

インフルエンザ菌b型髄膜炎は毎年約500人から600人の乳幼児がかかり、5%の子どもが死亡し、15～20%に知的障害などの後遺症が残ります。WHOはインフルエンザ菌ワクチンの接種を勧奨し、すでに100カ国以上で実施されています。しかし、日本ではインフルエンザ菌ワクチンがこの1月に承認されたばかりで、まだ公費による接種の制度はありません。「子育て日本一」を掲げる本市として、細菌性髄膜炎から子ども達を守るため、自治体としてワクチン接種制度を設けてはいかがでしょうか。